

眼科 研修プログラム

1 研修先

眼科

2 指導体制

各科・診療部門における指導体制は、別表「指導医及び指導者一覧」を参照

3 診療科基本スケジュール

- (1) 研修期間 自由選択研修 4週間 ※自由選択が1回目の研修は当該期間を短縮することはできない(延長は可)が、2回目以降の研修は短縮することができる。

(2) 配置予定

	自由選択研修
病棟	指導医の下で、受け持ち患者の診察
外来	指導医の下で、紹介患者の診察
手術	指導医の下で、手術の助手

(3) 週間予定表

	午前	午後
月	眼科外来で紹介患者の診察	外来患者の診察
火	眼科外来で紹介患者の診察	眼科外来で紹介患者の診察、カンファレンス
水	手術の助手	手術の助手
木	眼科外来で紹介患者の診察	外来患者の診察
金	手術の助手	手術の助手

4 研修目標

視覚障害の患者さんの気持ちをよく理解して診察できる。
眼科の基本的な検査について理解する。
眼科顕微鏡下手術の基本について理解する。

#	代表的行動	知識	態度	技能
①-1	主訴、現病歴、既往歴、家族歴、薬剤、アレルギーの有無などの情報を効率的に収集する。	○	●	○
①-2	理解度、ADL、キーパーソンなど患者背景を把握する。	○	●	
①-3	症状や経過について詳細な情報収集をし、診察を行う。	○	●	○
②-1	眼痛や不快症状を有する患者について理解し対応ができる。	○	●	○
②-2	結膜炎の初期対応ができる。	●	○	○
②-3	速やかに上級医に報告ができる。	○	●	
③	診療録をSOAP形式に従って記載する。	●	○	

5 経験すべき症候・疾病・病態（赤文字下線付きは必須項目）

経験すべき症候(※1)	<u>視力障害</u>
経験すべき疾病・病態(※2)	特定のものなし

※1 外来又は病棟において、上記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

※2 外来又は病棟において、上記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

6 経験すべき手技

特定のものなし

7 実際の業務

眼科外来で紹介患者の診察・処置を行って診療録に記載する。

眼科検査の理解

眼科手術の助手、および基本的手技

未熟児網膜症の診察の助手

8 指導内容

眼科外来で紹介患者の診察および処置に対する指導、およびフィードバック

眼科検査の理論・内容・結果の説明

眼科手術の基本的手技を指導、およびフィードバック

未熟児網膜症の診察に対する指導、およびフィードバック

9 方略・評価

基本スケジュールに沿って研修を行い、カンファレンスなどを実施する。

指導医から研修終了時にフィードバックを受ける。